

# 令和4年度 大阪府立大冠高等学校 第3回 学校運営協議会（記録）

令和5年2月10日(金)14時

本校校内（授業見学）

本校校長室（会議）

## ☆運営協議会委員

	お名前	ご所属	出欠
1	西村 孝彦	関西外国語大学 英語国際学部 教授	○
2	竹原 正和	高槻市立 第十中学校 校長	○
3	尾村 麻由美	コーチングラボ Coco Style 代表	×
4	深串 有里	高槻市民生児童委員	×
5	土井原 美智子	大冠高等学校 冠友会 会長	○
6	吉川 千晶	大冠高等学校 PTA 会長	○

## 次第

### 1 配付資料の確認 等

### 2 校内授業見学（14：25～15：15）

	科目	場所
1	物理基礎	2年4組
2	コミュニケーション英語Ⅱ	2年2組
3	公共	1年3組
4	数学Ⅰ	1年1組

### 3 第1部 報告 進行：教頭

3-1 令和4年度学校評価（案）について（校長より）

3-2 学校教育自己診断の結果について

3-3 質疑応答

<委員より>

●学校評価において、成果目標値の高いものは、少しでも越えたら◎とすべきである。人権教育充実度の肯定率 95%の目標において 96%の結果で○はかなり厳しい評価で、◎としてもよいぐらいである。◎にするためには 100%の結果を求めるしかなく、現実的でない。

A：府教育庁の示す評価のルールに則っている。

●学校評価において、相談体制の充実度の肯定率85%の目標において、86%も同様である。十分高い目標において達成なので、○ではなく、◎評価でよいと思われる。

●学校評価において、授業満足度の肯定率 85%の目標において 84%は達していないので△は厳しい評価である。85%の目標値が十分に高い設定であり、84%は総合的に見て○と評価してもよい。

#### 4 第2部 審議 進行：教頭

##### 4-1 令和5年度学校経営計画(案)について(校長より)

■めざす学校像 ■中期的目標

##### 4-2 質疑応答

<委員より>

- 1人1台端末では、どのように使用させるかを考えるのが大切であり、指導する教員の技術力・指導力の向上が必要である。
- 「ICTを活用した授業」の肯定率の目標値が90%と高い設定である。現場がしんどくならないように、90%を下回る結果であっても達成としてもよいと思う。
- SCが2人体制から1人体制になったのはなぜか。  
A：令和4年度から1人の都合がつかなくなり、1人体制となったが、回数は2人体制時と変わらず、教育相談委員会にも出席いただくなど内容は充実した。

審議の結果、■めざす学校像 ■中期的目標 の2点について承認される

#### 5 第3部 協議 進行：会長

協議委員から学校への提言

##### 5-1 校内授業見学での意見

<委員より>

- 1月から電子黒板を利用した授業といえ、良く使いこなしている。
- 4人机を合わせてChromebookで調べ学習している様子から、隣の生徒と相談しやすい授業環境ができあがっているのが良い。
- 社会人になったときに、字を書くことも大切なので、ノートにまとめる作業は存続するのだろうか。  
A：これまでどおり実施している。
- 授業を聞く力はどうなっていくのだろうか。  
A：これまでは与えられたことを覚えるのが勉強であったが、分からないことを調べるなど、学び方が方向転換されている状況である。
- 自分の意見を発信することが、今後大切な力である。先生が「どう思うか」と問いかけることで興味・関心が引き出される。
- 電子黒板に投影することで、生徒たちのモチベーションが変わっている。  
先生方も個性を出して、工夫してやっているのを感じた。
- 学校教育自己診断で、生徒・保護者ともに90%を超える高い結果が多い。この状況を積極的に発信してほしい。
- 野球部が学校周辺のごみ拾いをし、元気よく挨拶をしてくれる。また、自転車通学する生徒について、小中学生が渡る歩道で停止するなど思いやりの気持ちが増えてきている。
- スマホの使用時間は中学校でも1日あたり4時間以上が最多を占めている。高校生になって減ることはまずない。正しい使い方を教えることが大切である。

#### 6 諸連絡等

##### 6-1 その他